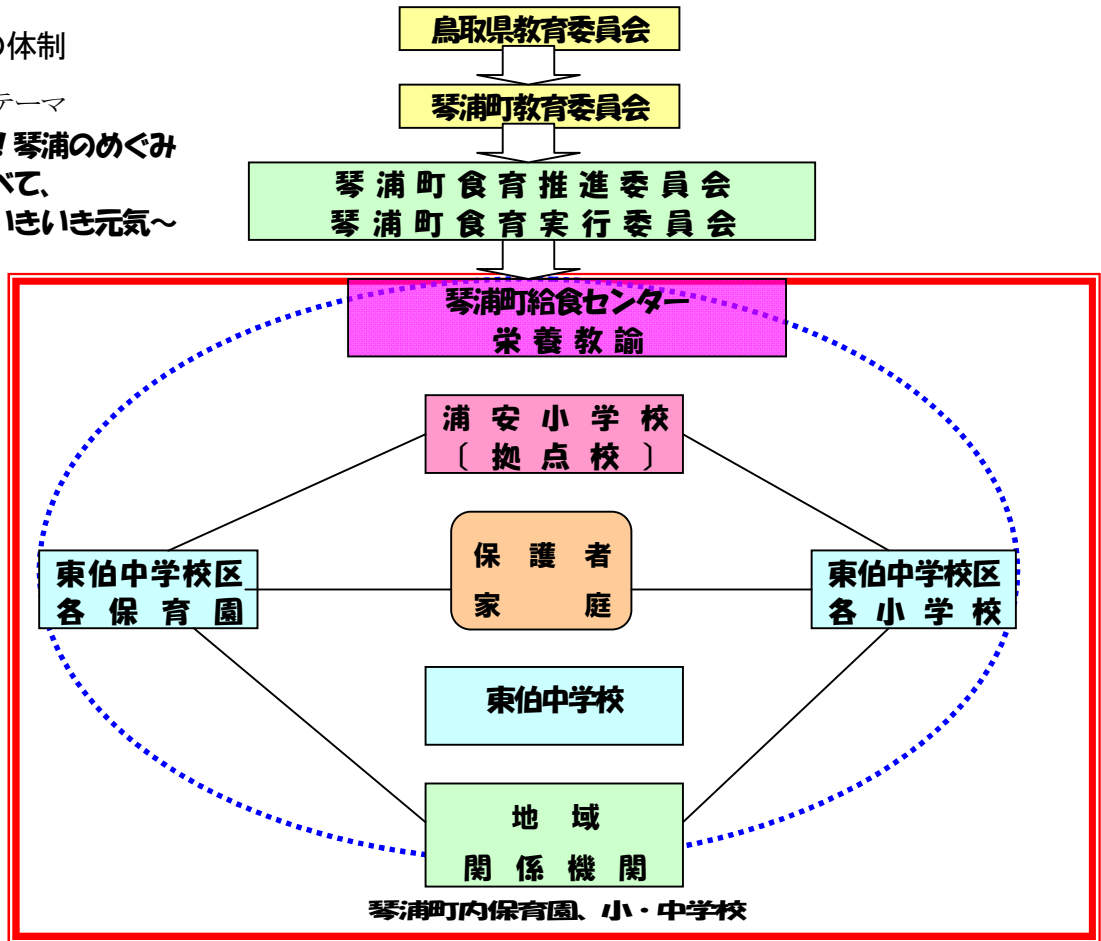


再委託先名	琴浦町
-------	-----

1. 事業推進の体制

琴浦町食育推進テーマ

**ごっつおさん！琴浦のめぐみ
～おいしく食べて、
心も体もいきいき元気～**



2. 具体的取組等について

テーマ1 各教科等における食に関する指導の充実のための取組

- 担任または教科担任と栄養教諭によるチームティーチングによる授業実践
 - ・ 町内の学校へ食に関する指導の計画的な実施のための調査(学年、教科、単元名、時期)
 - ・ 小中学校で、家庭科、学活を中心にチームティーチングを実施
 - ・ 拠点校(浦安小学校) 食に関する指導の全体計画の作成と実施
- 例 1年…給食クイズ 2年…クイズでわかるぞ！給食探検 3年…地産地消
4年…カルシウムのひみつ 5年…おやつ決め方 6年…朝食の大切さ など
- 給食時における効果的な食育訪問指導の実践
 - ・ テーマ「給食のきまりを守ろう」「姿勢よく食べよう」「水について考えよう」「よくかんで食べよう」「カルシウムをとろう」「何でも食べよう」など
- 地域の特性を生かした食に関する体験活動
 - 例 3年 かまぼこ作り体験、漁港見学→学習発表会 「あいラブ琴浦～ごっつおさん 琴浦のめぐみ～」野菜会との連携(大根ぬきなど)
 - 4年 なしの栽培体験(交配、摘果、袋かけ、収穫、選果場見学など)
 - 5年 米作り体験(田植え、稲刈り、稲こき、もちつきなど)

T Tによる授業実践





- 給食委員会による主体的な食育の推進活動
 - ・ 給食の献立を3つの食品群に分ける。給食当番のきまりのチェックなど
 - ・ 校内放送…今日の献立やメッセージ(ひまわり通信)を伝える
 - ・ 給食週間の取組…給食クイズ、食育啓発劇「健康と食べ物」(保健委員会と合同)
- 食に関するアンケートの実施(年2回 6月、1月)
- 食に関する指導の全体計画、食に関する指導の学年別年間指導計画の作成
- 食生活学習教材「食生活を考えよう」(文部科学省)を生かした学習指導
- 「食育コーナー」の掲示「給食放送」「食育だより」等、給食委員会児童の啓発活動
- 給食センターの仕事DVDの作成と各学校への配布



オリンピック選手と食事



県や町の食材

食への関心を高める「食育コーナー」の掲示

- 給食週間の取組
 - ・ 招待給食…学校支援ボランティア、各学年でお世話になった人を招待
 - ・ 交流給食…異学年で一緒にランチルームで給食
 - ・ 栄養教諭による「給食ができるまで」のお話
- 養護教諭による「体と食」の指導

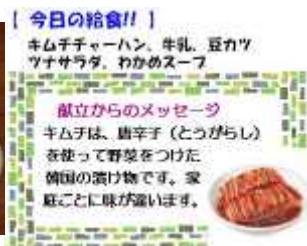


テーマ2 学校と家庭との連携による食に関する指導充実のための取組

- 「食育だより」により栄養バランスよく食べることや朝食の大切さについての意識を高める。浦安小学校では「ホームページ」を活用して、毎日の給食の写真と献立の掲載、食育の取組の紹介などを行って、家庭への情報提供及び啓発
- 参観日と連携した給食試食会、栄養教諭による食育講話の実施
- 家庭科の朝食作りを家庭でも実践、児童の実践の掲示による啓発



浦安小ホームページ



6年朝食メニューの掲示



給食試食会

- 食物アレルギーを持つ児童生徒の保護者への個別相談、個人ファイルの作成
保護者、給食センター、学校、地教委等関係者が集まってアレルギー対応食実施協議会の開催
- 各家庭の調理実践をまとめたレシピの作成と配布
(早くて簡単朝ごはんメニュー)
- 食育講演会の開催 講師 村上祥子さん
「ちゃんと食べてちゃんと生きる
～おいしく食べて心も体もいきいき元気～」

食育講演会「ちゃんと食べてちゃんと生きる」

電子レンジ
を使った
調理実践
→試食も！



テーマ3 学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

- 第2回琴浦ものづくり教室の開催【主催 教育委員会】
…「おもしろ料理をつくろう」というテーマで、
地域の食生活改善推進員の方や、もーもーカウイ
ークラブ※の方を講師に迎えての料理教室
- 先進地視察…三朝中学校、三朝町調理センター視察、栄養教諭の講話
- 学校支援ボランティア等を活用した学習活動(テーマ1と連動)
5年…もちつき 3年…かまぼこ作り体験
- 朝食キャンペーンの実施…町栄養士、食生活改善推進員による町内保育園訪問
→朝食メニューの展示、ちらし配布
- 地産地消の推進…「鳥取県民の日」献立に関する指導



琴浦ものづくり教室



かまぼこ作り体験



「鳥取県民の日」献立の話



みんないっしょに
まなタンまつり

- まなびタウン開館15周年記念事業「みんないっしょに まなタンまつり」(琴浦町事業)
- 親子でクッキング「おやつにも野菜を」(県事業と共催)
- うらやすキッズ(浦安公民館事業)
 - ・ 韓国料理教室(講師:韓国国際コーディネーター)
 - ・ クリスマスケーキ作り(講師:もーもーカウイークラブ)
- 給食週間
 - ・ 学校給食展…町内各小中学校の食に関する作品(習字、標語、絵など)を町内スーパーに展示
 - ・ 町民対象の給食試食会



うらやすキッズ 韓国料理教室



クリスマスケーキ作り

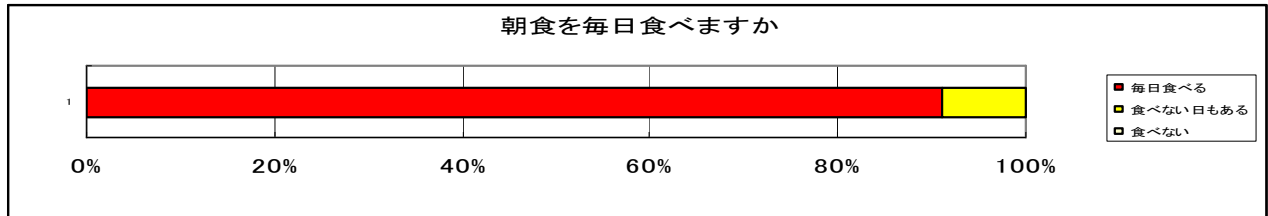


学校給食展

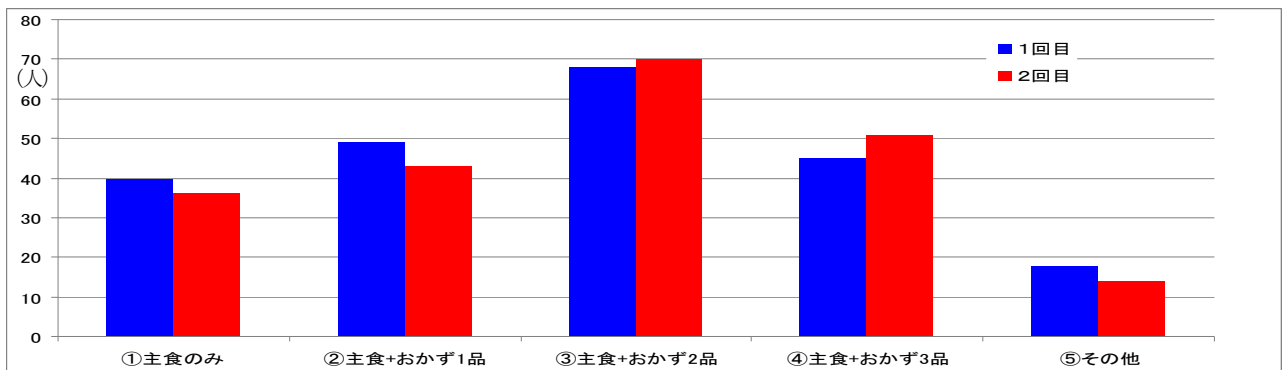
テーマ1～3に共通する具体的計画

- 琴浦町の食のめぐみを体験することができ、ふるさとへの愛着が育つような取組
- 栄養教諭の指導、各教科・領域での指導を通して、食事の大切さ、バランスよく栄養を摂ることが健康につながることを理解し、実践につながる取組
- アンケート結果より（浦安小学校）

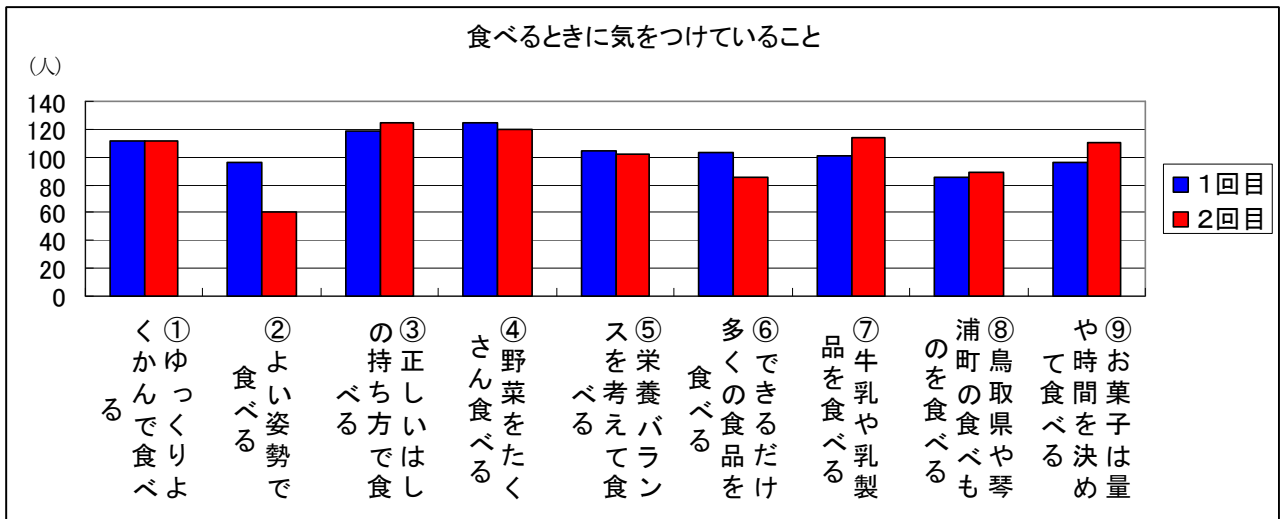
①朝ごはんを毎日食べる児童 91% 食べない日もある 9% 食べない 0%



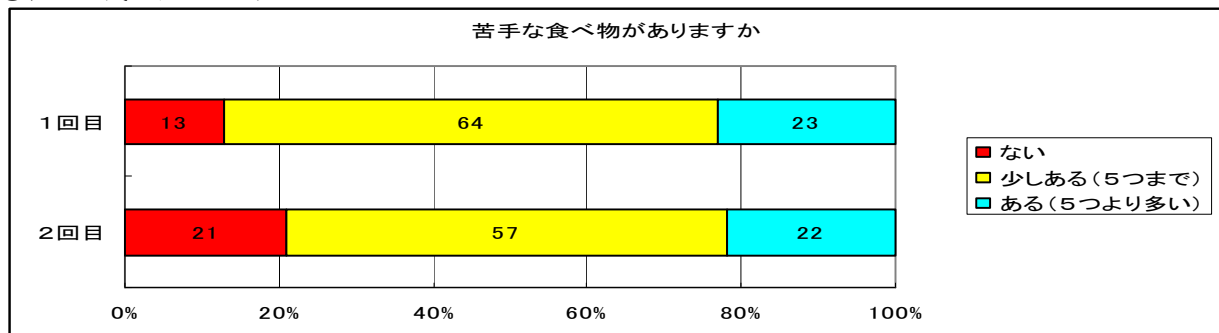
②朝ごはんの内容について



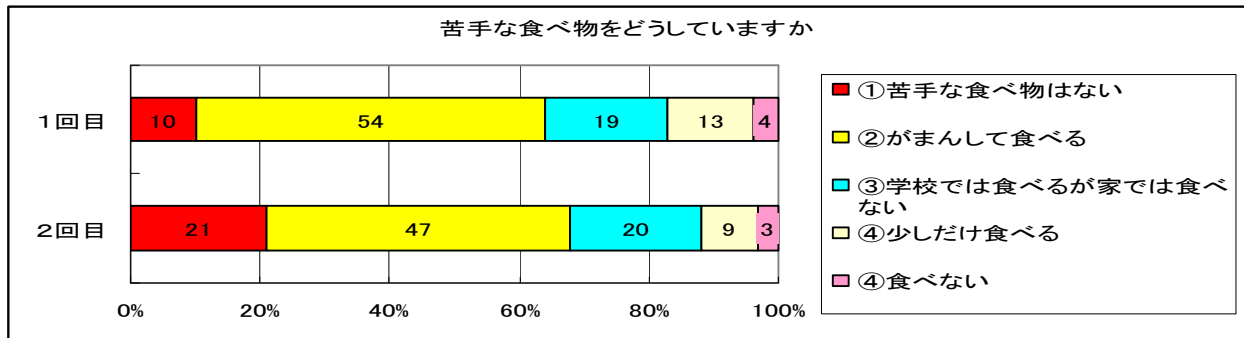
③食べるときに気をつけていること



④苦手な食べ物を持つ児童

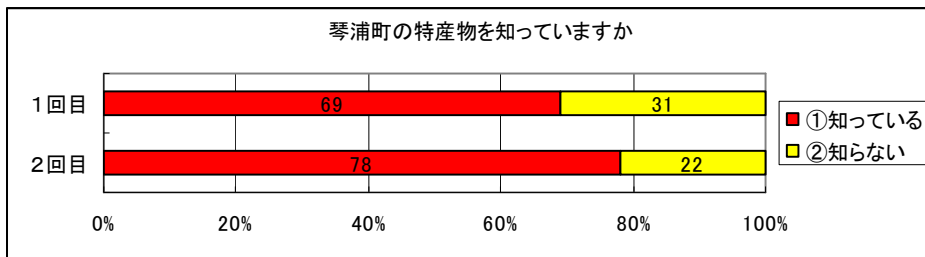


⑤苦手な食べ物をどうしていますか



⑥琴浦町の特産物を知っていますか

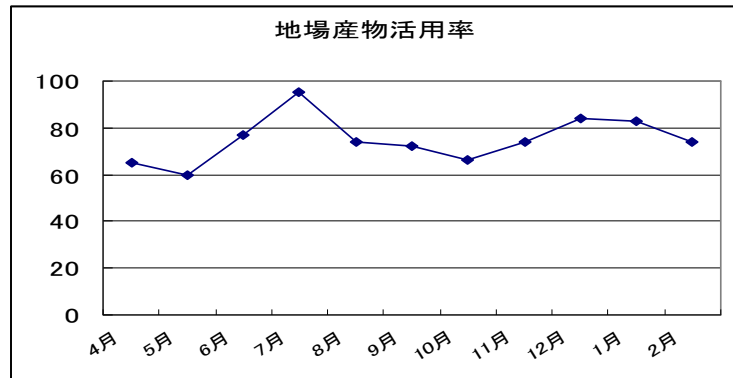
知っている 1回目 69% → 2回目 78%



本事業における評価指標と考察

- ① 朝食欠食率 23年度 1% → 24年度 0%
- ② 朝食の内容を主食だけから副菜を食べる児童を増やす。23年度 70% (琴浦町小学校)
24年度1回目 74% → 2回目 77% (浦安小学校)
- ③ 苦手な食べ物があっても、生産者や調理する人の思いにふれて食べる児童を増やす。
目標90%以上 → 97%

- ④ 地場産物活用率 23年度 71%
→ 24年度 74%
- ※ 平成24年度 学校給食用食材の
生産地別使用状況調査より



- ⑤ 栄養教諭の食に関する授業実践
23年度 26回
→ 24年度 53回
(拠点校 19回、他の町内小学校 27回、中学校 6回)

本事業の成果

- 食育推進委員会、食育実行委員会を開催することによって、栄養教諭を中核として、各保育園、小中学校、保護者、地域の関係機関が共通理解を図りながら進めていくことができた。
- 今年度、栄養教諭が「食に関する指導」について、町内すべての小中学校で指導することができた。学習内容も各小中学校へ希望調査を行い、学校の課題に即した指導、発達段階に応じた指導を行うことができた。
- 浦安小学校では、「食に関する指導の全体計画」を見直すことによって、系統的かつ計画的に指導を進めることができた。
- 安全で安心な給食実施のために、学校給食センター・学校・保護者・地教委が連携を深めることにより、アレルギー対応食の実施についてもより細かな調整を行うことができた。また、地産地消に努め、衛生管理・温度管理等の徹底等食の安全に関する取組もできた。

- 各保育園で、食育が保育のさまざまな活動と関連づけて取組まれた。菜園活動や調理などの体験活動だけでなく、当番活動や劇遊び、脳トレ遊びに取り入れて発展させていくことができた。そうした取組が、保護者への啓発にもつながってきている。

【拠点校〔浦安小学校〕児童の変容】

- 食育掲示や食に関する指導など様々な体験や学習を通して、知識を深めたり、地元の食べ物への関心を高めたり、する効果があり、食と健康への意識の向上（アンケート③）がみられるようになった。
- アンケート結果より、朝ごはんの内容の改善がみられる。2回目のアンケートでは、主食につくおかずの品数が（アンケート②）が増えている。
- 苦手な食べ物が減ってきている。苦手な食べ物も我慢して食べようとする傾向が見られる。（アンケート④⑤）
- 琴浦のめぐみを学ぶために、3年生が、地域との連携をとり、野菜会（生産者組合）の方と野菜を収穫する体験や、地元の漁港で競りを見学した。そのことを、学習発表会に向けて自分たちで劇化し、セリフを覚え、劇の練習に取組んだ。その中で、野菜を生産する人が、「新鮮で農薬の少ない安全な野菜を給食で食べてほしい」という思いを持っておられることにもふれることができた。こうした取組を通して、「地産地消」が身近になり、安全で安心な食材が提供されていることへの感謝や自分自身の食について考えることにもつながっていった。
- 夏休みや冬休みの生活習慣調べ（家族そろって朝ごはん、歯磨きしらべなど）の回収率がよくなった。子どもたちの生活リズムや食への意識が向上していることにつながっていると考えられる。

【栄養教諭の取組】

- 食に関する指導の調査を年度当初に実施し、年間を通して町内の各小中学校に出かけ、授業実践に取組んだ。平成23年度の26回から平成24年度は53回と増え、計画的に実施できた。
- 栄養教諭と連携して各学年のねらいにもとづいた指導をすることで、児童生徒の食への理解や関心が高まると同時に、「好き嫌いをせず何でも食べよう」「給食を残さず食べよう」という意識も高まっている。

【保護者の変容】

- 食育だよりやホームページ、食育掲示、学校保健委員会等による食育の啓発によって、ホームページへのアクセスの増加があり、保護者や地域の方の関心が高まっていると思われる。
- 給食の試食会、栄養教諭による講話、食育に関する学習参観、学習発表会等を公開することによって、保護者の食育への理解が広がりつつあり、児童の朝食の変化にもつながっている。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 今年度実践した栄養教諭を中核とした食育推進の取組を今後も進めていくことが課題である。今後も、琴浦町内の小中学校で年間計画の中に位置づけ、「食に関する指導」の充実を図りたい。
- 各小中学校、保育園で食育推進に関する取組は、それぞれが実態に合わせ工夫しながら行っているものの連携が十分にとれているとはいえない。今年度の取組が継続していけるように栄養教諭と各学校を支援していきたい。また、琴浦町健康づくり推進委員会の中で保健師、町栄養士を中心に琴浦町の取組として「よい食習慣の定着を図る」ための具体的な取組について各学校への周知を図り、実践化へとつなぐ。栄養教諭・町栄養士を中核とした琴浦町の取組として重点的に行う項目を設定し、広めていきたい。
- 食育を学校教育の中で位置づけてきているので、さらに児童会・生徒会等で児童生徒の主体的な活動の場となるような働きかけを進めていく。
- 地域との連携を図るために、学校と家庭だけでなく、生涯学習センターの事業、公民館事業など町行政との連携を進めていく必要を感じている。

※もーもーカウイクラブ…酪農家の女性部が中心となり、牛乳・乳製品の消費拡大を目的に、生産者が子ども達(保育園児、小中高校生等)や消費者への講習会を通じて「牛乳・乳製品の素晴らしさや食に対する感謝の心」を伝え交流を深める活動を行っている